

## 前奏曲

窓からピアノへ、薄い寂寥の風景  
朝食と呼ぶのなら  
去らねばならない時

壁から画帳へ、波音のしない孤独  
遙か彼方よりの使節  
ペンをただ一本だけ

埋れた感性を、その切っ先を  
日常性の中へ投げこむ  
もう戻れない

(1984.12.15)